

正誤表

『はじめての統計データ分析—ベイズ的〈ポスト p 値時代〉の統計学—』（豊田秀樹著／朝倉書店、2016）の正誤表です。

[2016.6.2 公開／2017.5 最終改訂]

1. 第2刷で修正された誤植

- p.10, 式 (1.19)

$$\text{[誤]} \quad \sqrt{\frac{\beta - \alpha}{12}} \quad (1.19) \quad / \quad \text{[正]} \quad \sqrt{\frac{(\beta - \alpha)^2}{12}} \quad (1.19)$$

- p.10, 7-8 行目

[誤] 1 分 7 秒 ($\simeq 1.12$ 分 $\simeq \sqrt{(15-0)/12}$) であることがわかります。 /

[正] 4.33 分 ($= \sqrt{(15-0)^2/12}$) であることがわかります。

- p.73, 3.7.2 項 6 行目

[誤] ... 少なくとも 0.334 より大きいと言えます。 /

[正] ... 少なくとも 0.340 より大きいと言えます。

- p.172, Q7: 1 行目

[誤] 第 1 章に登場した標本分散の平方根から計算した標準偏差 4.7 g **が**, 不偏分散の平方根から計算した標準偏差 **より** 大きくなることはわかります。... しかし第 2 章に登場した標準偏差の EAP 推定値 **は** 5.8 g であり, **さらに** 大きくなりました。ベイズ **は** 大きめに ... /

[正] 第 1 章に登場した標本分散の平方根から計算した標準偏差 4.7 g **より**, 不偏分散の平方根から計算した標準偏差 **が** 大きくなることはわかります。... しかし第 2 章に登場した標準偏差の EAP 推定値 **も** 5.8 g であり, **さらに** 大きくなりました。ベイズ **も** 大きめに ...

- p.172, Q7: 枠外 4 行目

[誤] ... 標準偏差 σ_{un} よりも必ず大きくなります。 /

[正] ... 標準偏差 σ_{un} よりも必ず小さくなります。

- p.172, Q7: 枠外 6 行目

[誤] $\sigma_{un} < s = \sigma_{mle} = \sigma_{map} < \sigma_{med} < \sigma_{eap}$ となります。 /

[正] $\sigma_{un} < s = \sigma_{mle} = \sigma_{map} < \sigma_{med} < \sigma_{eap}$ となります。

2. 第3刷で修正された箇所

- p.106, 式 (4.28)

[誤] (各項の分母の) σ_i / [正] σ' (4 か所)

- p.108, 下 3 行目

[誤] 標準偏差 σ_i / [正] 標準偏差 σ'

- p.109, 表 4.9

[誤] U_{σ_i} / [正] $U_{\sigma'}$

- p.127, 6 行目

[誤] ..., ロサンゼルスでは反対に郊外よりもダウンタウンのほうが...

[正] ..., ロサンゼルスでは反対に郊外のほうがダウンタウンよりも...

- p.134, 表 5.14 表題

[誤] ロサンゼルス (D.T.-郊外) の推定結果

[正] ロサンゼルス (郊外-D.T.) の推定結果

3. 第4刷で修正予定の箇所

※ 配布スクリプトの修正に伴う変更（スクリプトは修正済み）.

- p.191, 表 A.21

表 A.21 効果の大きさに関する生成量の事後分布の数値要約

	EAP	post.sd	2.5%	5%	50%	95%	97.5%
σ_a	0.319	0.243	0.013	0.025	0.268	0.788	0.907
σ_b	8.846	0.382	8.098	8.219	8.845	9.476	9.601
σ_{ab}	1.266	0.349	0.615	0.708	1.256	1.857	1.980
η_a^2	0.002	0.004	0.000	0.000	0.001	0.010	0.013
η_b^2	0.821	0.026	0.763	0.774	0.823	0.860	0.866
η_{ab}^2	0.018	0.009	0.004	0.005	0.016	0.036	0.040
η_t^2	0.840	0.024	0.788	0.798	0.842	0.875	0.880
δ_a	0.082	0.062	0.003	0.007	0.069	0.202	0.231
δ_b	2.287	0.200	1.901	1.962	2.286	2.620	2.686
δ_{ab}	0.326	0.090	0.157	0.182	0.324	0.479	0.511

- p192, 上から4行目

〔誤〕 先程の結果より 95%以上の確信でもって要因効果が認められた要因 B の効果の標準偏差 σ_b は 6.849(0.296)[6.266, 7.433] であり, 説明率 η_b^2 が 0.733(0.035)[0.659, 0.794] で約 73%でした. また効果量 δ_b は 1.770(0.154)[1.472, 2.077] で水準の効果の標準偏差が水準内の標準偏差の約 1.8 倍でした.

〔正〕 先程の結果より 95%以上の確信でもって要因効果が認められた要因 B の効果の標準偏差 σ_b は 8.846(0.382)[8.098, 9.601] であり, 説明率 η_b^2 が 0.821(0.026)[0.763, 0.866] で約 82%でした. また効果量 δ_b は 2.287(0.200)[1.901, 2.686] で水準の効果の標準偏差が水準内の標準偏差の約 2.3 倍でした.